

## 式 辞

初夏を迎え、吉川の田んぼには水が入りました。桜のピンク、菜の花の黄色、これから訪れる水田の緑も吉川を代表する色彩です。世界中に不安や混乱はありますが、揺るぎなく営まれる自然の力強さが、正しく考えて、一步一步前へ進めと後押しをしてくれています。

さて、ただ今呼名された187名の皆さんは、吉川中学校の1年生です。一人一人の表情には、ちょっぴり不安気な様子も見られますが、今この時から、その不安が期待に変わるよう応援します。そして、何よりも、吉川中学校の伝統の始まりです。吉川中学校の生徒であることに誇りを持ち、期待を受け止め、精いっぱい3年間を過ごして下さい。

入学おめでとう。

数日前、見通しのよい1階の廊下を東から西へと歩いてみました。私の歩幅で141歩。水道には蛇口毎に縦長の鏡が掛けられ、皆さんの笑顔を映し出す準備をしています。天井が高い吹き抜けの広い多目的スペースを通り抜け、突き当りは、今いる体育館。一方廊下の反対側は、1組からずらりと並ぶ教室。学習机が整頓されひっそりとした四角い教室が、皆さんの手でいつしか丸みを帯びた居心地の良い空間に代わるよう期待しながら歩を進めました。

これから、本校での3年間の生活で、大切なことを2つお話しします。

一つ、「考える、蓄える、伝える生徒」を目標にする。

「考える生徒」とは、何事に対しても自分の頭や体で感じ自分自身の考えを持つ生徒。または持とうとする生徒です。そこには、他者の考えをしっかりと受け止めることが必要です。

「蓄える生徒」とは、吉川中学校の生徒として、これから学習することや経験することを自分の宝物にする生徒です。自分のため、人のため、地域社会や未来のために使う宝物です。健康や体力もその内の一つです。

「伝える生徒」とは、自分の考えや思ったことを勇気をもって伝える生徒です。時には、どのような方法で、どのような言葉で伝えたらよいかを冷静に考える必要があります。学校や地域の誇りを伝えることや、自分の不安や悩みを人に伝えることも大切です。

一つ。校長からの宿題。

「家族を、郷土を、愛し、志を立て、凜として生きてゆく」。吉川市の教育大綱です。

私から「凜として生きる中学生とは、どのような中学生かを考える」という宿題を与えます。1年生187名に、187通りの答えがあってよい課題です。その答えの提出は、3年後、皆さんの卒業証書授与式で、「あなた自身の姿」で示して下さい。

以上、2つをお話ししました。これらを支えるのは、「健康」です。しっかり朝食を採る。安全に登下校する。授業や部活動で心や体を鍛える。必要な睡眠をとる。

今、小学校で培った自らの力に自信を持ち、新たな気持ちでスタートを切る皆さん一人一人に大いに期待し、式辞といたします。

令和2年6月1日

吉川市立吉川中学校 校長 前田 稔